

|           |   |
|-----------|---|
| Title     | L-ラーニング「大学図書館員のためのリポジトリ」  |
| Author(s) | 阿部, 潤也  |
| Journal   | 医学図書館, 56(1): 33-38   |
| URL       | <a href="http://hdl.handle.net/10130/1088">http://hdl.handle.net/10130/1088</a> |
| Right     |   |

# Lーラーニング「大学図書館員のためのリポジトリ」

阿部 潤也\*

私立大学図書館協会東地区部会研究部 Lーラーニング学習支援システム研究分科会・東京歯科大学図書館

## I. はじめに

図書館員の専門性についての議論は常に行われている。しかし現状は職員削減のためのアウトソーシング導入や、他部門への人事異動による「専門職員の流動化」、そして自己の業務に追われるためにOJT\*1すら満足に行われなような「時間的制約」のなかにある。それらは大学や利用者から求められている、図書館員の役割を果たすために必要な能力を身につけるための研修会や講習会への参加機会の減少につながっている。図書館員がその専門性の質を維持、向上させるための機会は失われつつある。このような危機的状況にある我々図書館員が、その専門性を確認するためのひとつのアイテムがLーラーニングである。

## II. Lーラーニングとは？

「Lーラーニング」とは「Library」「Librarian」「Literacy」と「Eーラーニング」を掛け合わせた造語である。私立大学図書館協会東地区部会研究部には13の研究分科会があり（2分科会は休会中）、Lーラーニング学習支援システム研究分科会はその中では最も新しく、2004年4月に設立された。現在は、私立大学図書館員5名がコアメンバーとして活動を行い、分科会の前身である「LL Project (L Learning Project)」からのメンバーもオブザーバーとして参加している。分科会の目的は、大学図書館員の自己点検、自己学習、自己研鑽を目的とした学習支援システムの構築ならびに評価、分析である。

### 1. これまでの成果

「LL Project」からの引き継ぎの成果である「TakaQによるLーラーニング」<sup>1) - 5)</sup>では模擬試験ウェブサイトを構築し、問題および解説の作成を行った。「XoopsによるLーラーニング」<sup>6) - 8)</sup>では「TakaQによるLーラー

ニング」によって蓄積された問題および解説をデータベース化すると同時に、当分科会が提案した図書館業務分類である「Lーラー的図書館体系」に基づき、体系的に学習を行えるようにした。「XoopsによるLーラーニング」は「Lーラーニング：図書館員学習支援システム」として、文部科学省・インターネット活用教育実践コンクール実行委員会主催「第7回インターネット活用教育実践コンクール・社会教育部門」<sup>9)</sup>にて佳作となり、図書館員教育のためのEーラーニングプラットフォームとして、図書館外からも評価を得ることができた。「MoodleによるLーラーニング」<sup>10) - 12)</sup>では、LMS\*2であるMoodleをプラットフォームとして採用し、既存のテキストベースのコンテンツに加えて、音声や動画等のコンテンツ、携帯電話等のプラットフォームを融合させた「Lーラー的ブレンディッド・ラーニング\*3」を構築した。

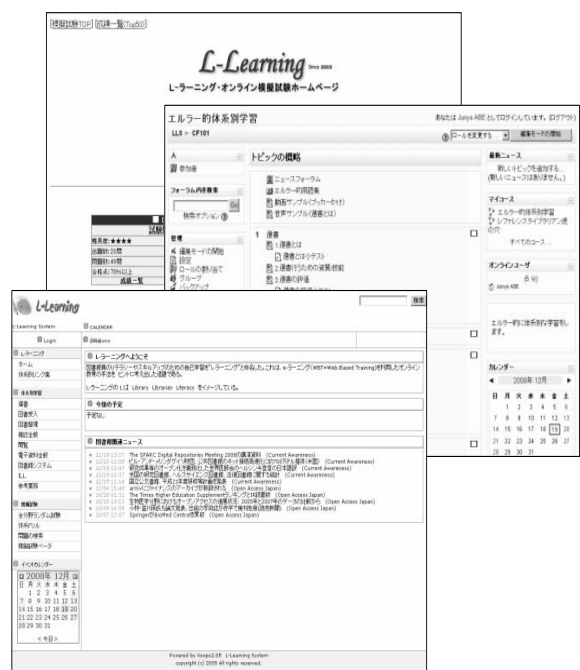


図1. これまでのLーラーニング

\*Junya ABE : 〒261-8502 千葉県千葉市美浜区真砂1-2-2. abejun@tdc.ac.jp (2008年12月22日 受理)

## 2. これまでの課題

学習支援システムが機能するのに必要なものは、プラットフォームとその中に入れ込むコンテンツである。これまでも内外から多く指摘を受けてきているが、提供するコンテンツの作成およびメンテナンスについては常に課題となっている。新規コンテンツ作成に係る労力はもちろんのこと、作成したコンテンツは常に最新情報であるべきだが、そのためのメンテナンスが非常に困難である。その解決策として Wikipedia のようなユーザ参加型サイトの構築も検討したが、残念ながら実現には至っていない。

## Ⅲ. 大学図書館員のためのリポジトリ

### 1. 構築の目的

これら課題の解決策として、サブジェクトを「図書館」とした、大学図書館員による、大学図書館員のためのリポジトリを構築することとした。学習支援システムのためのコンテンツ収集を目的としたリポジトリである。登録するコンテンツは以下を想定した。

- ・ 図書館に関する論文や学会発表資料
- ・ それぞれの図書館で活用されている講習会やガイダンスのための資料
- ・ ポスターやチラシ等の広報資料
- ・ 業務マニュアル

コンテンツはそれぞれの図書館で既に作成されているため新たに作成する必要がない。また、その図書館にとって陳腐化した情報であれば、いずれ最新情報に更新されるであろうから、メンテナンス作業も必要がない。そのように仮定した。複数大学による共同リポジトリは「広島県大学共同リポジトリ」<sup>13)</sup> や「学術成果発信システムやまがたゆうキャンパスリポジトリ」<sup>14)</sup> がよく知られている。しかしながら、管理、登録を有志の私立大学で行い、サブジェクトを「図書館」としたリポジトリは、それらとは異なる全く新しいコンセプトのリポジトリと言えるであろう。

### 2. システム構築

特別な財源を持たない分科会活動においては、自力によるシステム構築以外に選択肢はない。そこでオープンソースであり、構築やメンテナンスが容易であることをシステム選択の大前提とした。国内で既に構築されている機関リポジトリの多くにはDSpaceが採用されている。しかしながら、開発がMITで行われていることから画面表示が英語であり、日本語化のためのカスタマイズが

必要である。一方、理化学研究所脳科学総合研究センターニューロインフォマティクス技術開発チームによるプロジェクトであるXooNIps<sup>15)</sup>は、画面表示がもともと日本語であることや、Xoopsのモジュールのひとつとして動作すること、これまでの分科会活動においてXoops、あるいはXoopsをベースとしたMoodleを利用してプラットフォームを構築してきたことからすれば選択は必然であった。ハードウェアには、これまでに構築したプラットフォームでも利用してきたVPSサーバ<sup>4)</sup>を使うこととした。VPSサーバはレンタルしているため、特別なメンテナンスは不要である。また、サーバOSにはCentOS5を採用した。これはXooNIpsの構築マニュアル例に即すためであり、構築に係る労力を大いに省くことができた。



図2. 大学図書館員のためのリポジトリ

## Ⅳ. アンケート調査

### 1. 実施概要

構築したリポジトリへのコンテンツ登録とその充実が当面の課題であるわけだが、会員所属館の登録したコンテンツだけでは不十分であるのは明白である。そこで、「大学図書館員のためのリポジトリへの登録ご協力に関するアンケート」を実施した。分科会設置主体が私立大学図書館協会であることから、私立大学図書館における機関リポジトリ構築に関する意識調査もあわせて実施し

た。対象は私立大学図書館協会東地区部会加盟館252館とし、分館のある図書館については中央館のみに送付した。実施期間は2008年7月8日から7月31日で、締切り後に送付されてきた分についても集計対象とした。大学図書館員のためのリポジトリに関する質問3問、機関リポジトリに関する質問5問で構成された。結果、回答数は156館（回答率：61%）であった。

表1. アンケート用紙

| 機関リポジトリに関するアンケート                     |                |
|--------------------------------------|----------------|
| I. 大学の学部数について                        |                |
| 1. 1                                 | 2. 2~4         |
| 3. 5~7                               | 4. 8以上         |
| II. 図書館職員数                           |                |
| 専任職員（兼務）                             | ( )人           |
| 非専任・派遣・委託職員等                         | ( )人           |
| (年間実働1500時間を1人として換算：四捨五入)            |                |
| III. 機関リポジトリについて                     |                |
| 1. 運用している                            | 2. 運用予定がある     |
| 3. 運用予定はない                           | ⇒ V. へ         |
| IV. 機関リポジトリを運用している、または予定がある館へお尋ねします。 |                |
| 目的やメリットは何でしょうか？（複数回答可）               |                |
| 1. 大学としてのアピール                        | 2. 研究成果の発信     |
| 3. オープンアクセスに賛同                       | 4. 図書館を学内へアピール |
| V. 機関リポジトリを運用する予定がない館へお尋ねします。        |                |
| 予定がない理由は何でしょうか？                      |                |
| 1. 興味はあるが人手不足                        | 2. 予算がない       |
| 3. 大学からの理解が得られない                     | 4. メリットが感じられない |
| 5. その他 ( )                           |                |
| 大学図書館員のためのリポジトリへの登録ご協力に関するアンケート      |                |
| A. 賛同するので登録したい                       |                |
| 1. 情報交換になる                           |                |
| 2. 他の図書館の事例を参考にしたい                   |                |
| 3. 図書館のPRになる                         | 4. 研修資料に利用したい  |
| 5. 図書館員のためのリポジトリに期待している              |                |
| 6. 大学図書館の発展につながると思う                  |                |
| B. 賛同できるが登録できない（複数回答可）               |                |
| 1. 著作権処理の方法が分からない                    |                |
| 2. 出版社に対する許諾申請が面倒                    |                |
| 3. 出版社の許可が得られるとは思えない                 |                |
| 4. 共著者の許可が得られない                      |                |
| 5. 入力そのものが面倒そう                       |                |
| 6. PDF化するの面倒そう                       |                |
| 7. 内部的な同意を得る手段が分からない                 |                |
| 8. 内部的な同意が得られない                      |                |
| 9. 登録・公開できるようなものがない                  |                |
| 10. 著作権を侵害していないか心配                   |                |
| 11. その他 ( )                          |                |
| C. 賛同できない（複数回答可）                     |                |
| 1. 意味がわからない                          | 2. メリットが感じられない |
| 3. その他 ( )                           |                |

## 2. 「大学図書館員のためのリポジトリへの登録ご協力に関するアンケート」結果

「A 賛同するので登録したい」への回答数は46であり、全体の29%であった。最も多かった回答は「他の図書館の事例を参考にしたい」、次いで「情報交換になる」であった。業務に直結するようなコンテンツの利用を希望しているようである。しかしながら、そのようなコンテンツばかりでは、我々の意図している学習支援システ

ムとしての機能につながらないため、今後の課題とした。ただし、「研修資料に利用したい」も多く回答された点は我々にとって良い傾向であった。

「B 賛同できるが登録できない」への回答数は98であり、全体の62%であった。最も多かった回答は「登録・公開できるようなものがない」であった。「リポジトリ」という名称をシステムに採用したため、機関リポジトリがそうであるように、論文のような学術成果だけを登録するシステムであると思われた可能性がある。もちろん、論文は登録コンテンツのターゲットとなり得るが、それだけではないということアピールすべきだったのかもしれない。

「C 賛同できない」への回答数は8であり、全体の5%であった。否定的な意見は少数であり、学習支援システムのためのリポジトリ構築の方向性が間違っていないことを再確認することができた。

## 3. 「私立大学における機関リポジトリに関するアンケート」

「機関リポジトリの運用について」で最も多かった回答は「運用予定はない」であった。回答数は124であり、全体の79%であった。逆に「運用している」の回答数は14であり、全体の8%であった。学部数による運用および運用予定の割合の違いも顕著であった。

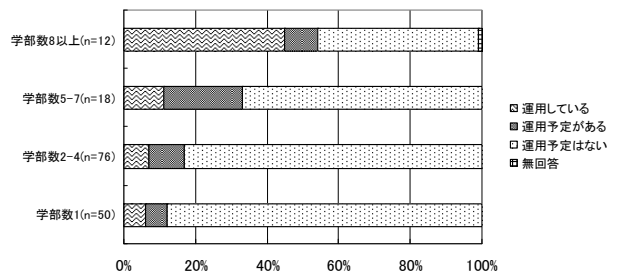


図3. 機関リポジトリ運用状況

「機関リポジトリを運用している、または予定がある館へお尋ねします。目的やメリットは何でしょうか？」で最も多かった回答は「研究成果の発信」の26であった。「研究成果の発信」は機関リポジトリ本来の目的であり、妥当な結果と言える。次いで「大学としてのアピール」の21が多かった。機関リポジトリの構築そのものが、国内ではまだまだ多くない事例であるからこそ、実施することで大学あるいは図書館としての先進性をアピールする目的があるのであろう。

「機関リポジトリを運用する予定がない館にお尋ねし

ます。予定がない理由は何でしょうか？」で最も多かった回答は「興味はあるが人手不足」の61であった。これは、大学図書館界の現在の危機的状況を端的に表している回答結果であると思わざるを得ない。

表2. 実施しない理由

|                   | 学部数<br>1 | 学部数<br>2-4 | 学部数<br>5-7 | 学部数<br>8以上 |
|-------------------|----------|------------|------------|------------|
| 興味はあるが<br>人手不足    | 25       | 34         | 1          | 1          |
| 予算がない             | 16       | 25         | 4          | 1          |
| 大学からの理解が<br>得られない | 8        | 7          | 1          | 1          |
| メリットが<br>感じられない   | 7        | 6          | 0          | 1          |
| その他               | 6        | 12         | 5          | 2          |

しかしながら、大学基準協会・自己点検評価基準<sup>16)</sup>「11図書・電子媒体等」の「情報インフラ」に関する評価の視点として「学術資料の記録・保管のための配慮の適切性」や朝日新聞社「大学図書館ランキング2010」<sup>17)</sup>のアンケートにおいて、『「学術機関リポジトリ」における研究成果の搭載件数、同・研究成果がダウンロードされた件数』が評価項目として採り上げられている。これらが外的要因となり、私立大学にとって機関リポジトリを運用するきっかけとなるかもしれない。

## V. 大学図書館員のためのリポジトリの現状と今後

### 1. コンテンツについて

リポジトリであるので、当然ながら誰もが自由に閲覧することが可能である。新着コンテンツはもちろん、多く閲覧された、あるいは多くダウンロードされたコンテンツのリストをトップページに配置しているため、どのくらいの利用があるかが一目瞭然となっている。また、46大学がリポジトリへの登録の表明をしてくださり、登録のための利用者IDとパスワードの配布を行った。これまでに登録されたコンテンツは表3の通りである。

表3. 登録コンテンツ

| コンテンツ        | 登録数 |
|--------------|-----|
| Paper        | 10  |
| Conference   | 6   |
| File         | 73  |
| Presentation | 3   |
| URL          | 10  |
| 計            | 102 |

## 2. 登録について

リポジトリへのコンテンツ登録を体験してもらい、リポジトリへの理解を深めてもらうという主旨もあるので、登録をスムーズに行うためのマニュアルを用意した。また、XoopsのFAQモジュールを使用し、当リポジトリに関する「FAQ」および、雑誌掲載記事を登録するために必要な情報として「図書館関連雑誌著作権情報」も用意した(図4)。

2008年11月24日に開催された「私立大学図書館協会東地区部会2008年度研究会(交流会)」において中間報告を実施し、コンテンツ登録を促進するためのアピールも行った。本誌の読者におかれても、興味を持たれた際には、個人としてのコンテンツ登録も可能であるので、是非ともご連絡をいただきたい。

## 3. 今後について

登録していただいたコンテンツをどのように学習支援システムとして展開させていくかが今後の課題である。国内の多くの機関リポジトリが業績データベース等と連携しているように、XooNIpsを他の有用なシステムと連携させることも考えられる。あるいは、これまでの活動の中で課題としてきた学習の継続性も重要である。ロール・プレイング・ゲームのように、課題をクリアするたびに達成感が得られ、次の展開へ進みたくするようなシステムの構築の検討を行ってきた。このようなゲーム性を取り入れることも視野に入れたい。また、試行ではあるが、Xoopsのニュースモジュールを使用し、登録されたコンテンツをブログ形式で紹介、解説することで、既に登録されているコンテンツを一次資料とした新たなブログ記事の配信を開始している。そのブログ記事は、登録コンテンツ同様にRSSで配信されるため、RSSの登録者は関心のある内容であれば、登録コンテンツを閲覧することで学習することが可能であろう。これまでのL-ラーニングでは、学習するには能動的にアクセスが必要であり「プル型」のシステムであったのに対し、RSSでは受動的に情報を得ることが可能であり、「プッシュ型」の学習支援システムへの足がかりになると考えている。

## VI. おわりに

L-ラーニングによる大学図書館員のためのリポジトリの構築によって、リポジトリとしての新しいコンセプトは提案できたものとする。また、学習支援システムとしての展開もわずかながらではあるが着手しつつある。

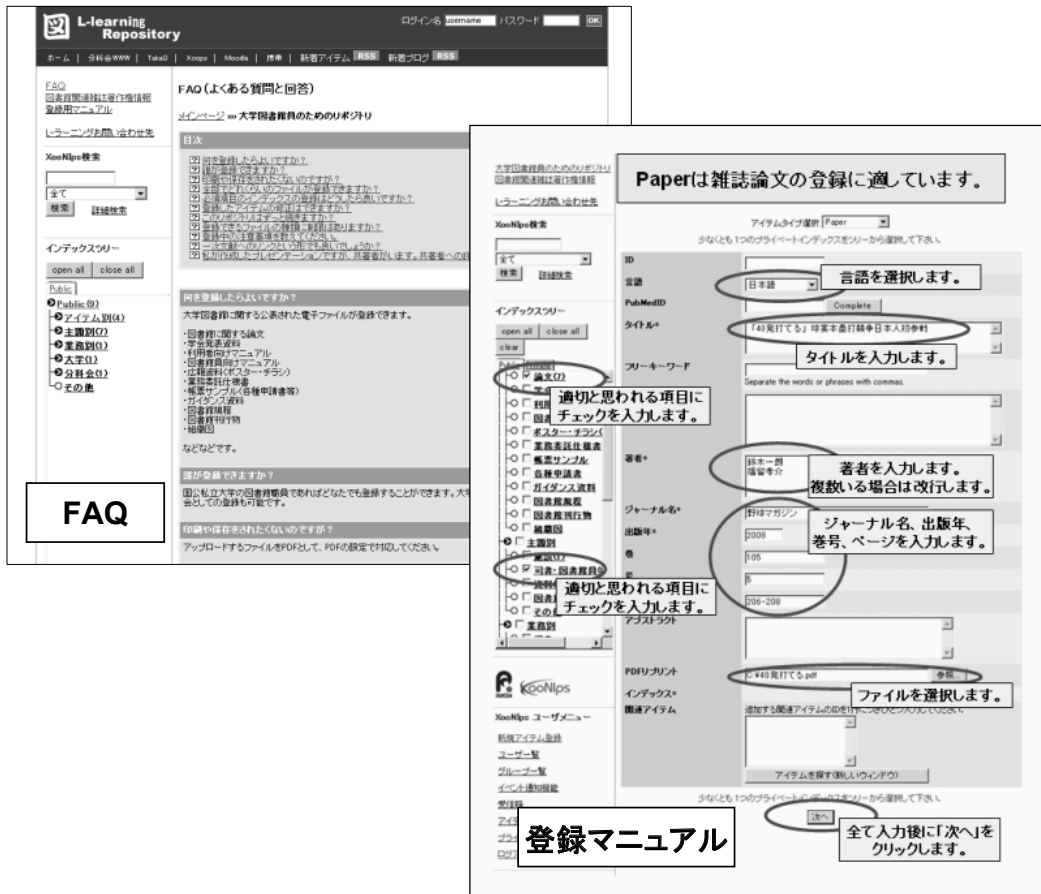


図4. 登録マニュアルとFAQ

冒頭で述べたとおり図書館職員の研修・研鑽の機会は明らかに減少している。L-ラーニングによる自己学習がすべてを解決するわけではないが、大学図書館員のためのリポジトリと、その後展開される学習支援システムがそれら機会の増加につながる一助になれば幸いである。

### 謝辞

アンケートにご協力くださった私立大学図書館協会東地区部会加盟館252館ならびに研究部運営委員の皆様、執筆にあたり多くのアドバイスをくださった分科会メンバーに感謝申し上げます。

### 用語解説

- \*1 OJT…On-the-Job Trainingの略。職場にいる従業員を職務遂行の過程で訓練すること。
- \*2 LMS…Learning Management Systemの略。E-ラーニングにおいて、教材の配信やユーザの学習履歴等が管理できる。
- \*3 ブレンディッドラーニング…E-ラーニングを含む、様々な学習方法の組み合わせによる学習プログラム。
- \*4 VPSサーバ…Virtual Private Serverの略。物理的に一台のサーバで、仮想的にサーバを複数台提供するサービス。

### 参考文献・URL

- 1) 池田剛透. L-ラーニング大学図書館員模擬試験公開のご案内. 専門図書館 2003;199:52.
- 2) 池田剛透. L-ラーニング大学図書館員模擬試験の評価と分析. 図書館雑誌 2003;97(9):658-60.
- 3) 池田剛透. L-ラーニング・オンライン模擬試験の実施経過と次期フェーズ. 大学図書館問題研究会誌 2004;25:29-37.
- 4) クイズCGI TakaQ[internet]. <http://www.mytools.net/cgitools/quiz2.html> [accessed 2009-01-26]
- 5) TakaQによるL-ラーニング[internet]. <http://www.l-learning.jp/takaq/> [accessed 2009-01-26]
- 6) 佐藤稔彦, 阿部潤也. L-ラーニング学習支援システム研究分科会の成果と展望. 私立大学図書館協会会報 2006;126:182-6.
- 7) XOOPS Cube日本サイト[internet]. <http://jp.xoops.org/> [accessed 2009-01-26]
- 8) XoopsによるL-ラーニング[internet]. <http://www.l-learning.jp/xoops/> [accessed 2009-01-26]
- 9) 第7回インターネット活用教育実践コンクールについて[internet]. [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/19/02/07022310.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/19/02/07022310.htm) [accessed 2009-01-26]
- 10) 阿部潤也, 田代陽子. 大学図書館員のためのブレンディッド・ラーニング-Moodleを使ったエラー的システムの構築- 私立大学図書館協会会報 2008;130:110-5.
- 11) Moodle. org[internet]. <http://moodle.org/index>.

- php?lang=ja\_utf8 [accessed 2009-01-26]
- 12) MoodleによるLーラーニング[internet]. <http://www.l-learning.jp/moodle/> [accessed 2009-01-26]
  - 13) 広島県共同リポジトリ[internet]. <http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/> [accessed 2009-01-26]
  - 14) 学術成果発信システムやまがたゆうキャンパスリポジトリ [internet]. <http://repo.lib.yamagata-u.ac.jp/> [accessed 2009-01-26]
  - 15) XooNIps official site[internet]. <http://xoonips.sourceforge.jp/> [accessed 2009-01-26]
  - 16) 『『大学基準』とその解説』と2009(平成21)年度申請大学用点検・評価項目[internet]. [http://www.juaa.or.jp/images/accreditation/pdf/handbook/university/2008/shiryuu\\_04\\_2.pdf](http://www.juaa.or.jp/images/accreditation/pdf/handbook/university/2008/shiryuu_04_2.pdf) [accessed 2009-01-26]
  - 17) 週刊朝日編. 大学ランキング. 1995-2009年版. 東京:朝日新聞社;1995-2009.